

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	6月	13日	(記入者) 東辻 裕子	
取材参加者	秋山	大谷	神野	東辻	
取材対象先	大和高田市：観音堂（慈雲寺）の木造十一面観音立像、木造二天王立像				

所在地	大和高田市大字藤森299				
所有者（取材 対応者）名	藤森自治会(藤森自治会 * * * 氏、* * *氏)(個人情報守秘)		連絡先 0745-53-6264		
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：大和高田市 生涯学習課				
市町村 指定文化財	彫刻	3 軀	木造十一面観音立像（1 軀）、木造二天立像（2 軀） 3 軀 とも2022（令和4）年4月14日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	ともに平安時代後期の制作と考えられ、かつてこの地に存在したであろう寺院の隆盛を伝える貴重な仏像である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	同じ敷地内に国指定重要文化財の十二社神社本殿があり、文化財保護法に基づく防災対策がなされている。	特に問題はない。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	観音堂のすぐ近くに濠があり、多湿は避けられない。出入口の敷居がシロアリ被害に遭っていた。（訪問時には駆除済だった。）	これからも注視していただきたい。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	藤森地区に住む女性で代々観音講が構成され、月1から2回開扉し、堂内の清掃や供花などを担ってきたようだ。しかし、高齢化で令和2年頃に講は解散したので、自治会で引き継いだ。進学や就職で地元を離れる人が多く、人口は減少しており自治会で守っていくのもいつまで続くかわからないという不安もあるようだ。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

河川が多い地域で、周辺地区では古代より幾度となく水害に遭っているが、藤森だけは不思議と水害に見舞われた記録や言い伝えがないようだ。
観音像、二天王像ともに江戸時代頃に修復したそうだが、以後は修理していない。ところどころ虫害も見られるが目立った損傷はなく、地域の人々が大切に守られてきたことがうかがえる。
今後も大切に受け継いでほしいと願う。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	6月	13日	(記入者) 東辻 裕子	
取材参加者	秋山	大谷	神野	東辻	
取材対象先	大和高田市：観音堂（慈雲寺）の木造十一面観音立像、木造二天王立像				

＜写真撮影許可済み＞

文化財指定名 木造十一面観音立像、木造二天王立像

文化財（十一面観音立像）	文化財（二天王像・開口像）
	
文化財（二天王像・閉口像）	シロアリ被害の様子
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>ともに桧の一木割矧（わりはぎ）造りで、制作時期は平安時代後期（12世紀）と考えられる。</p> <p>本尊の十一面観音立像の表情は穏やかで肩幅が広く、腕にかけて丸みを持たせ、下半身は細身で優美な姿をしている。二天王像は本尊の左側に右手に宝塔を捧げる開口像、右側に右手に剣を持つ閉口像を安置するが、かつては四天王を構成していた可能性がある。</p>	<p>藤森地区は堀（濠）に囲まれた環濠集落である。</p> <p>かつて大和平野中心部には環濠集落が多くあった。時代の流れとともに姿を消しつつあるが、この藤森の環濠はよくその姿をとどめている。また、明治時代以前は多武峰の社領で、「藤森」という地名からも藤原氏との縁が深かったと考えられる。観音堂には「慈雲寺」という扁額がかかっているが、慈雲寺、観音堂ともに由緒不詳である。</p>